

2015年後半 G・ワシントンから ロナルド・レーガンに 原子力空母交代へ

1万人市民
アンケートに
ご協力を



CVN-76 ロナルド・レーガン (wikipediaより)

2014年1月15日、在日米海軍と外務省は、横須賀基地を母港としている原子力空母ジョージ・ワシントン、を、2015年後半に原子力空母ロナルド・レーガンへ交代させると発表しました。

G・ワシントンからR・レーガンへのバトンタッチは、単なる原子力空母の交代ではありません。原発ゼロが大きな争点となっている日本で、横須賀だけはその例外として、原子力空母が居続ける、という新たな提案です。

黙っていたらこの町は、この先ずっと、原子力艦事故におびえながら暮らす町になってしまいます。今こそ横須賀市長・市議会は、原子力空母の母港を継続して良いのか、安全対策は十分なのか等について、市民の意思を問う機会を設けるべきです。

2度にわたって、原子力空母母港の是非を問う住民投票の直接請求に取り組んできた私たちは、今回「1万人市民アンケート」を実施します。この町の重要なことは市民が決める。そのためのアンケートです。ご協力ください。

レーガン被曝問題

原子力空母レーガンは、トモダチ作戦で福島原発事故直後の重大な放射能被曝を受け、多数の乗組員が被曝して癌等の重大な病気になり、現在200名以上が東京電力を相手取って米国で裁判を起こしています。現在の放射能レベルは大丈夫なのでしょうか。米海軍は今こそ横須賀市民に同艦の被曝の実態と、現在の放射能レベル等を明らかにすべきです。



navy milより

1万人市民アンケートにご協力下さい

原子力空母ロナルド・レーガンの配備前に、市民の声を市、県、日米両政府に発信していくため、市民アンケートを行っています。あなたのご意見をお聞かせください。

- 横須賀に配備されている原子力空母が、今年後半に交代することをご存知でしたか。
①()知っていた ②()知らなかった
- 原子力空母に関する米軍、日本政府や横須賀市の安全対策をどう思いますか。
①()十分 ②()不十分 ③()わからない
- 横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思いますか。
①()賛成 ②()反対 ③()どちらともいえない
- そのほか、原子力空母に関するあなたのご意見をご記入ください。

性別 男性() 女性()
住居 横須賀市内() 市外()
年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代~

※アンケートのご回答は一人1通とさせていただきます。

ご協力ありがとうございます。
ご回答を切り取って(コピーも可)下記までお送りください。
〒238-0008 横須賀市大滝町1-26清水ビル3階 横須賀市民法律事務所
FAXは 046-827-2731まで
メールでのご回答は <http://cvn.jpn.org/cvn/> から

地域集会 ぜひ、ご参加ください!

原子力空母交代と安全性を考える地域集会

●市内5か所で、原子力空母の交代とその安全性を考える説明会を開きます。横須賀市役所担当職員による出前トークも予定しています。また、すべての会場で10,000人市民アンケートも実施いたします。ぜひ、お誘い合わせの上ご参加ください。

久里浜・北下浦地区	5月24日(日)18:00~	久里浜八幡町内会館
衣笠・西地区	6月 7日(日)13:30~	衣笠はまゆう会館
追浜・田浦地区	6月14日(日)13:30~	追浜コミュニティセンター本館
本庁・逸見地区	6月20日(土)13:30~	ヴェルクよこすか
大津・浦賀地区	6月28日(日)13:00~	大津コミュニティセンター

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

〒238-0008 横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階
横須賀市民法律事務所
電話:046-827-2713 FAX:046-827-2731



こんな近くに
原子力空母

JR横須賀駅まで1.3km

- 三笠公園
- 地裁横須賀支部
- 常葉中学校
- 横須賀共済病院
- 諏訪小学校
- 横須賀市役所
- 京急横須賀中央駅
- 横須賀郵便局
- 神奈川歯科大学
- 大滝町商店街
- 緑が丘高校
- 横須賀芸術劇場
- 汐入小学校
- 京急汐入駅
- シヨッパーズプラザ
- ヴェルニー公園
- JR横須賀駅
- ウエルシティ
- 逸見小学校

原子力空母G・ワシントン 2015年後半、 R・レーガンに交代



あなたは、どう思いますか。
10,000人市民アンケートに
お答えください。

日常的に起きている 原子力艦船の事故

- 1971 ● 原潜ウッドロウ・ウィルソン、グアムで一次冷却水の圧力低下、メルトダウンの危険。
- 1971 ● 原潜スヌーク、故障で船体を傾けながら横須賀に入港、放射能汚染の疑い。
- 1975 ● 潜水艦母艦プロテウス、グアム湾内に、高放射能の一次冷却水を大量に放出、付近の海を汚染。
- 1976 ● 原潜から補給船に移した冷却水500トンが川に漏出。
- 1977 ● 米ビュージェット造船所で、2週間に4件の放射能汚染事故。3人の労働者が被曝。
- 1978 ● 原潜パファ、高放射能の一次冷却水を大量にビュージェット造船所内に流出。
- 1979 ● 原子力空母ニミッツ、原子炉部で一次冷却水漏れ。
- 1980 ● 原子力巡洋艦ロングビーチ、沖縄で高放射能検出。
- 1980 ● 原潜ホークビル、ビュージェット造船所で冷却水漏れ。5人が汚染、2人が内部被曝。
- 1982 ● 原潜サム・ヒューストン、ビュージェット造船所で冷却水漏れ。一人が汚染。
- 82以前 ● 原潜フォン・スチューベン、原子炉が緊急停止、数時間漂流。
- 1983 ● 原潜サーゴ、ハワイで冷却水排出時に放射能漏れ。
- 1985 ● 原子力空母カール・ビンソン等3隻の乗務員に原子炉の安全運転テストを行ったが不合格。
- 1988 ● 原子力空母アイゼンハワー、商船と衝突事故。
- 1989 ● 原子力空母アブラハム・リンカーン、330ガロンの低放射能冷却水を川に放出。
- 1989 ● 原潜フィンバック乗組員が低レベルの放射性物質を含む機械を川に投棄。
- 1990 ● 原子力空母ニミッツの水兵、不適切な訓練によって、放射能安全調査の定期点検にごまかしがあると内部告発。
- 1991 ● 原子力巡洋艦ロングビーチ、バルブ故障のため、サンディエゴ湾内に一次冷却水が漏れる。他にも4つの港で放射能漏れ事故。乗組員の2名が白血病。
- 1992 ● 原子力空母エンタープライズ、造船所で放射能を帯びた冷却水が漏れて、作業員9名と4室が汚染。
- 1994 ● 原子力空母エンタープライズ、ドライドックで修理中に原子炉室で火災。放射能物質が漏れた。
- 1995 ● 原子力巡洋艦カリフォルニア、放射能を帯びた水が漏れ、3名の水兵が汚染。
- 1996 ● ビュージェット造船所で、原子力艦アーカンサスの放射性蒸気漏れ。15時間事故を州政府に通報せず。
- 1996 ● 原潜サンファン、グロートン基地で、水兵1名が原子炉への破壊行為の疑いで免職。
- 1997 ● 原潜ポーツマス、基地での作業中に、2人が被曝。
- 1998 ● アイダホの海軍原子炉実験施設から、高レベルの放射能が検出。周辺の住民200名が避難。
- 1999 ● 原子力空母ステニス、母港のサンディエゴ港内で座礁し、原子炉が2基とも緊急停止。
- 2000 ● 原潜オリンピック、ハワイの造船所で修理中に放射性冷却水が漏れ、3名の労働者被曝。
- 2004 ● 原潜ラホヤ、佐世保寄港中に、電気ケーブル火災。
- 2006 ● 原潜ヒューストンで2年間放射能漏れ。この間横須賀、佐世保、沖縄に寄港。
- 2006 ● 横須賀寄港中の原潜ホルルル出港時の海水から、コバルト58、60が検出される。
- 2007 ● 原潜ハンブロン、原子炉の安全点検を1月以上行わず、隠蔽のため、点検記録も改竄。
- 2008 ● 原子力空母G・ワシントン、乗組員のタバコの不始末で火災。80ヶ所の電気ケーブルが被災。
- 2012 ● 原潜マイアミ、ポーツマス海軍工廠で火災。7名が負傷。

25年分の 死の灰

原発の燃料交換は1年に1回。溜まる死の灰は最大1年分です。原子力空母の燃料交換は25年に1回。溜まる死の灰は最大25年分です。

爆弾や ジェット燃料も

原発周辺には、爆発物貯蔵庫や燃料タンクを作ることばできません。しかし原子力空母は、艦内の至近距離に、大量の爆弾やジェット燃料を積んでいます。

高濃度の 燃料棒

原発の核燃料のウラン235の濃縮度は3〜5%。これに対して、原子力空母の核燃料ウラン235の濃縮度は約95%で、原爆並の高さです。

安全審査 なしで配備

原発は日本政府の厳しい安全審査を受けています。それでも事故は起きました。原子力空母は、その安全審査すら受けていない、まったくのノーチェック状態です。

これからも 原子力空母と いっしょに 暮らしますか



動かなかった 非常用冷却装置

米海軍は、原子力空母には電力に頼らず原子炉を冷却できる能力があると言います。非常用復水器(冷却装置)と呼ばれるものですが、福島原発1号機にも同様の装置がありました。が、メルトダウンを食い止めることはできませんでした。

3.11 原子力空母は

星条旗新聞は「横須賀にいた原子力空母の」水位は6フィート(183cm)下がり、揺れは非常に強くて船を埠頭岸壁から離すほどだった」と乗組員の証言を伝えています。大規模地震が基地を直撃すれば、原子力空母の原子炉も決して安全ではありません。

原子力空母が 地震・津波に襲われたら

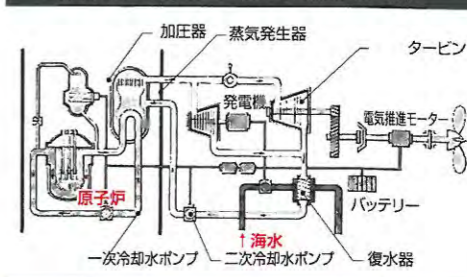
大規模地震で想定される事故

- 津波で乗り上げ、海水の取水不能
- 冷却施設の電源喪失
- 艦内の非常用施設の機能喪失

水素爆発、メルトダウン・水蒸気爆発による格納容器等の破壊 艦外への放射性物質の放出

横須賀港内で原子炉が稼働中ないし停止後の想定です。原子炉停止後も、崩壊熱の冷却が必要です。

原子力空母の原子炉

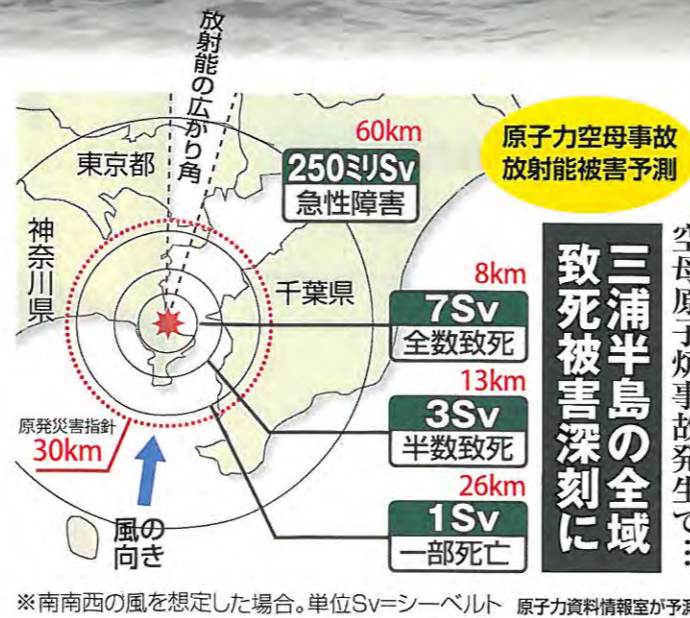


熱出力60万kW
×2基

(福島第一原発1号機と同規模)

**原発の原子炉と
米海軍の原子炉は兄弟**

原子力空母は2基の原子炉を積んでいます。原子炉に核燃料を装填し、核分裂反応による熱で作った水蒸気でタービンを回して航行します。原子力発電用の加圧水型軽水炉(福島第一原発は沸騰水型)は、海軍の原子炉が原型です。両者の原理は同じもの。つまり、原子力発電の原子炉と海軍原子炉は「兄弟」の関係です。



時代遅れの二重基準 5マイクロシーベルトと 100マイクロシーベルト

	放射線量	避難区域	重点地域
原発 災害指針 (2013年)	毎時 5 マイクロ シーベルト	5キロ 圏内	30キロ 周辺
原子力艦 防災マニュアル (2004年)	毎時 100 マイクロ シーベルト	1キロ 以内	3キロ 圏内 (屋内退避)

原子力災害対策指針の改定で、原発周辺で毎時5マイクロシーベルト(通常の約百倍)が検知された場合、周辺5キロ以内の住民は即時避難すべきと決定されました。

原子力艦防災マニュアルでは、横須賀基地周辺で、100マイクロシーベルト(通常の約2千倍)が検知された場合に、原子力空母から3キロ以内の住民の屋内退避が定められているだけです。このままでは、原子力空母が原子炉事故を起こした時、避難が遅れ、被曝が拡大するおそれがあります。